



小児循環器科

トピックス・部長就任挨拶

小児科部長(小児循環器担当)：宗内 淳

当科は、先天性心疾患、不整脈、心筋疾患、肺高血圧症、川崎病などを中心に診療を行っております。2010年は小児心臓超音波検査4000件以上、小児心臓カテーテル件数471件（うちカテーテル治療88件）、小児心臓CT検査177件でした。診断・治療技術の進歩のため、より高度な知識と技術を要求されるようになってきております。特に先天性心疾患の分野では、カテーテル治療件数の割合が増加しています。Amplatzer心房中隔欠損閉鎖デバイス（ASO）・動脈管閉鎖デバイス（ADO）などの治療器具の登場、複雑な先天性心疾患の外科治療と組み合わせによる共同治療として、そして遠隔期症例の増加に伴う遺残症・続発症への治療介入などが、治療件数増加に関係していると考えられます。2005年から保険収載されたASOは全国に急速に広がり、2010年までに全国で2000名以上の方が治療を受けてこられました。当科でも、現在まで53例のASOを合併症なく施行しました。

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
カテーテル件数	352	414	406	377	353	471	334
カテーテル治療件数	35 (10%)	60 (14%)	78 (19%)	61 (16%)	72 (20%)	88 (19%)	75 (22%)
バルーン弁・血管形成	24	45	61	39	42	47	37
心房中隔欠損閉鎖			3	8	12	16	14
側副血管コイル塞栓	8	9	7	5	5	6	7
動脈管閉鎖（コイル）	3	6	7	9	7	6	3
動脈管閉鎖（Amplatzer）					2	3	6

*2011年は
1月～9月までの件数

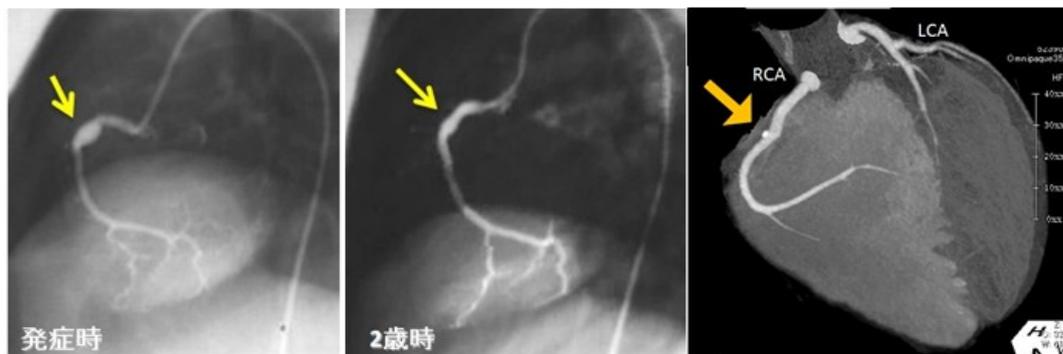
《Amplatzer動脈管閉鎖》

当科では2009年より開始しました。古典的に行われてきたコイル塞栓治療に比べ、大きな動脈管に対しても行うことが可能です。動脈管サイズ2mm以上、生後6か月以上、重度の肺高血圧症がないことが条件です。高齢者にも行うことが可能であり、外科的手術と比較すると合併症の危険が低く有用な治療です。現在まで12例に行い、年齢は1歳4か月～64歳まで様々です。



《心臓CT》

先天性心疾患における血管の解剖学的形態、特に周辺組織との関連性を見る上ではとても有用な検査です。先天性心疾患の外科手術の方針を決定する上では欠かせない検査となってきました。また川崎病の冠動脈病変の評価にも取り入れられ、遠隔期評価などで利用しています。



写真の症例は発症時、右冠動脈に径4mmの冠動脈瘤が認められましたが、2年後には退縮しています。しかし発症後15年経過したときに冠動脈CTでは動脈瘤があった部位に石灰化が認められます。このように、退縮した冠動脈瘤においても遠隔期に石灰化が認められることを初めて報告しました（Pediatric Cardiology誌）。

小児科部長（小児循環器担当）：宗内 淳



— 部長就任のご挨拶 —

2011年10月より、小児科（循環器担当）部長を拝命いたしました宗内と申します。日頃より、診療にご協力いただいております先生方にはこの場をかりてお礼申し上げます。胎児・新生児から成人に至るまで先天性心疾患・不整脈・心筋疾患・肺高血圧・川崎病等、多岐に渡って診療にあたっております。特に先天性心疾患の分野において、カテーテル治療は内容が複雑化・高度化しており、技術的な向上を目指すことはもちろん、安全性を常日頃から重視して行っております。城尾副院長が築いてこられた小児医療に対する姿勢を受け継ぎ、更に発展してゆけるように尽力してゆく所存です。



むねうち じゅん
宗内 淳 1998年 九州大学医学部卒

【専門】

・小児循環器

【資格】

・日本小児科学会専門医
・日本小児循環器学会専門医

